

RUNの始まり 第19回 大山高原マラソンに参加して



聞いてごしない Part 13

「釣りはロマンだ！」

私共が住んでいるここ境港がそして島根半島周辺が優れた漁場であることは、周知のとおりである。と同時に忘れては成らないのが、中海の存在である。この湖は、太古の昔から、そう少なくとも弥生時代より漁業が営まれていたようである。

ここ中海はご存じの通り、日本でも数少ない希水湖として有名である。この条件下で生息する魚は、いずれも美味しく種類も様々でスズキ、カレイ、サヨリ、チヌ、真鯛、ハゼ、ウナギ、石鯛、メバル、コチ、ヒイラギ(通称エノハ)、変わり種はエイやトラフグ等々あげたらきりが無いほどである。中でも食して絶品なのが、タイワンザガミ(通称アオデ)という蟹である。本来ならば暖かい海に生息する蟹なのであるが、ちょうどここらの地域が北限となる。瀬戸内海や九州方面でも当然とれるのだが、味は全く違うと言って良いだろう。ちょうど盆のあたりが旬となるが、その数めっきり減ってしまい、近年では1シーズン2~4回位しか口に入らなくなってしまった。そして、その大きさも一回りふた回り小さくなってしまった。ほんとに寂しい限りである。

話をもとに戻すが、こういった恵まれた環境のもとで育った私故に当然、海は遊び場の対象となった。近所の雑貨屋で1本200円の竹竿、紙に包んだ頼りない針、かみつぶしのオモリ、10mで50円のテグスを買ひ、歩いて1分の漁場へと足繁く通ったものである。最近釣りがブームとなっているが、私もこの6~7年前から暇があったら海に出向くようになった。子供の頃の釣り方とは道具も餌も全くと言っていいほど違うのには驚いた。

今の季節、昼の部では、チヌ釣りをすることが多い。このチヌという魚、雑食性(オキアミ、サナギ、ボケ、ゴカイ、蟹、はたまたスイカと何でも食う)のくせにとても神経質で、水の濁りを好む。この習性を利用して最近はやりの紀州釣りを楽しんでいる。餌を糠団子に包んで海に投入するやり方である。この釣り方を説明するとハンサム紙面の1ページ分あるのでここでは省略させていただくが、かなりの釣果が得られた。ほんとに釣りは私にとって良い気分転換であり、お土産までいただける都合の良い趣味なのだ。興味を持たれた方は、また談義に花を咲かせましょう。

釣りは、マナーを守ってゴミは持ち帰り、そしてこの自然環境は、なるべく形態を変えずに子供達に伝えてやりたいものだ。

野球にテニスに大忙しの浜の漁師

私、後藤公平は9月23日(祝)に行われた『第19回国立公園大山高原マラソン全国大会』に参加してきました。

当日は晴天にも恵まれて絶好のマラソン日和となり、総勢950名にもものぼる参加者数は全国大会の名にふさわしいものでした。マラソンの舞台となった大山パードコースは日本陸上競技連盟の公認コースで、私の出場した第1部10kmは「博労座~榎水高原~博労座~国際スキー場~博労座」の標高差が100mもあるアップダウンの激しいコースでした。

午前10時にスタート。目標タイムを60分におき、完走を目指して走りだしました。走りだして僅か300m、旅館街で既に息が上がりはじめ「こりゃ昨日飲みに出たパチが当たったな。」と後悔にひたりながらもひたすら走り続けました。夏山登山道入口あたりで変な汗が出始め、「きっとアルコールに違いがない死ぬかもしれない。榎水の折り返しでリタイヤしよう。」と誓って(?)、パクパクいう心臓に不安を覚えながらどうにか榎水までたどり着きました。でも、人間って不思議なものでいざ榎水まで来たら「まだいける。もうちょっと。」と色気が出て、更に走り続けていました。

旅館街に戻ってきた頃にはアルコールが抜けきったのか調子も上がり、快調にラップを刻んでいたところ、豪円山の急坂でトップの選手とすれちがいました。「なに~!もう帰ってきただか。」自らのポジションを否応なく認識させられブルーになりましたが、上の原ヒュッテの方の声援を受けて元気を取り戻しました。しかし、国際スキー場の折り返しを過ぎた頃から右膝が痙攣しはじめペースダウンを余儀なくされました。だましまし、時には歩いて、何とか豪円山の急坂を下った頃にはラップは60分を越えていましたが、最後の力を振り絞って72分かけてどうにかゴールすることができました。

準備らしい準備をせずに臨んだ無謀なチャレンジでしたが、やっぱりスポーツでかく汗はすばらしいものでした。地元住民の方や選手の方の暖かい声援が、萎えかけていた気力を奮い立たせてくれる大きな原動力になることを自らの体験を通じて痛感し、「きっとトライアスリートもそうなんだろうな。」なんてトライアスロンにまで想いを馳せたりしました。

これに懲りずに11月28日(日)に行われた第28回米子読売マラソン大会にも参加しました。結果はいずれハンサム紙面にて。(広報/後藤公平)

12月例会案内

とき 平成11年12月15日(水)
ところ ホテルわこう 18:30~
内容 忘年例会
担当 げんこつ委員会・21地球委員会

12月役員会報告

12月定例役員会が、平成11年12月1日(水)、岩崎館に於て開催された。当日の主な議題は次の通りです。

- (1) 12、1、2月例会開催の件
- (2) 新入会員承認の件
- (3) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記

先日、我家の庭先で百舌(モズ)の「はやにえ」(捕らえた蛙や昆虫を木枝に串刺しにするアレです。)を発見!しかも2ヶ所も。

「風流だなぁ」と暫く悦に入っていたが良く考えると目の高さに蛙のミイラがぶら下がっているのも気味が悪いので、哀れな蛙を枝からはずして土に帰してやった。

百舌には気の毒だが、代わりにチクワの切端でも刺しておいてやると思う。

Handsome

発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 堀田收 編集責任者 小林慎一 印刷所 東京印刷製

平成11年度青経連合同研修会開催

(西部青年中央会 11月例会)

11月29日ホテルサンルートに於いて片山善博鳥取県知事、森田隆朝米子市長、黒見哲夫境港市長を迎え青経連合同研修会(西部青年中央会11月例会)が開催された。

基調講演「鳥取県西部の未来を語る」の中で片山知事は、環日本海時代の拠点づくりとして、平成4年に始まった境港のポートセールスから平成7年より上海航路と釜山航路の就航。今年10月末には釜山航路が週2便に増便され、現在、秋田-ポシエット、新潟-羅津間の各航路の境港への寄港を働きかけている近況を報告。また、米子空港国際化に向けて韓国との定期便就航について、好感触を得たもののビジネスになるかが決め手であり、県内空港のC I Qの問題対応が必要であると話され、海と空の環日本海航路の拠点を目指し積極的に取り組む姿勢がうかがわれた。



片山知事は、鳥取県がまとまって発展するためのひとつとして東中西部の意識の融合化を目指し、県内交流をぜひすすめたいと話され、鳥取県のいいところを発掘して外へPRすることが本場のジグ起こしであり、発想の転換をし、みんなで一歩前進すれば巨大な一歩につながると話された。

その後、(有)あっぷるはうす代表取締役長谷川泰治氏をコーディネーターとしてパネルディスカッションに入り、21世紀を見据えた米子・境港両市のビジョン・環日本海交流の位置付け・中海圏域との連携・市町村合併等について両市長に意見をうかがった。

森田市長は、「健康保養都市を謳い文句とし、2本の柱に福祉と環境の充実、そしてこれからは、国際化がキーワードになる。市町村合併は、財政規模の小さい自治体が生きていくためには必要である。やがて起こりうるであろう合併への機運の盛り上がりに向け、土台づくりをしておきたい。」同じく黒見市長は、「貿易と交流を目的としたFAZを中心に地域産業の活性化を図るため、経済・文化交流の促進を目指す。市町村合併は将来避けて通れない。合併は地域住民が『合併すべき』『合併した方がよい』という気運が生まれてくる中で行政が動くのが望ましい。合併をしなければならぬ必要性、メリット・デメリットの情報提供を県にお願いしており、市民へ公開することが大切である。」と話された。

最後に長谷川コーディネーターより「新しい地方自治のあり方の基本は誰が政策形成を作り、政策形成と決定のプロセスに我々がどのように関わるかである。提言や陳情ということに身を置くのではなく、自らが政策を形成する即ち、自分たちが自分たちの地域の政策を担っているという気概を持ちながら対等に行政とわたりあえるという形の新しい時代に入っている自覚をもっていただきたい。両市長も、心強くパートナーシップを持っていこうという形により、新しい地方自治のスタイルが生まれてくるのではないかと考える。2000年の新しい時代をパートナーとして行政と一緒に政策を形成していこうというスタンスをもって、青年経済団体のあり方について深く強く考えていただきたい。」と結ばれた。

新しい時代のスタートラインに立とうとしている今、行政と青年経済団体との関わり、存在価値・役割を考え直すことが必要な時期にきていることを感じずにいられない結びである。



パネリス 境港市長



県青中・経営研修会報告



平成11年11月24日、倉吉市福庭にある鳥取女子短期大学に於いて、「鳥取県中小企業青年中央会・経営研修会」が行われた。会場となった鳥取女子短大はJR倉吉駅のすぐ近くの小高い丘の上にあり、沢山の緑に囲まれ、その広々とした敷地からは恵まれた学習環境が容易に想像できた。

約150名程の参加者で迎えた研修会は水谷県会長の開会の挨拶に続き、堀田西部会長による講師先生のプロフィール紹介で始まった。

講師の山田修平先生は鳥取女子短大の教授であり、『労働経済』『社会福祉』を専門とし、それらに関する多くの著書や学会論文も発表されている。

当日は「町と企業と大学の関わり」という演題で、地域と地元大学とのあるべき関係を具体的な事例を上げて説明された。まず先生は地域や企業が地元の大学をどんどん有効に活用すべきであると話された。そもそも大学とは研究の場であり、日々新しい研究に取り組んでいる。そうして蓄積された豊富な専門知識は学内のみならず、学外の地域や企業にとっても貴重なものである。我々企業側が積極的に地元の大学との交流を深め支援していくことにより、これらの知識を形にして世に出すことができれば双方にとって大きなメリットとなるはずである。

また先生は大学自身の課題として、近年県内の大学へ進学する学生数が減少している傾向に触れられ、その理由は幾つか考えられるが、一番大切なことは大学側の意識改革であり、変化を恐れず新しい形を生み出す努力を続けて行くことだと話された。

今までの常識を捕らわれない発想、具体的には学外の多くの人々に門戸を開き大学の講義に自由に参加できるようにする。のみならず意見や考えを述べることにより大学の運営にも参画してほしい。そして大学が立地する地域そのものの魅力についても一緒に考えていきたい、とのことであった。

これからの大学は高い塀に囲まれた特殊な場所ではなく、社会人、男、女、障害者と誰にでも開かれた「ノーマライゼーションの大学」であるべきだと締め括られた。

余談になるが講演終了後、学内を見学させていただいた際にさすが女子大だけの事はあり、どの施設も大変きれいで清掃が行き届いていたのがとても印象的であった。



平成11年11月7日(日)、朝日ゴルフクラブ大山コースにて「25周年記念交流ゴルフコンペ」が行われた。現役会員43名、OB会員21名、総勢64名で快晴の天気の下、日頃のゴルフの腕を競い合った。

和田OB、堀田会長によって始球式が行われた後、元気良く各組スタートして行った。各ホール各組とも、珍プレー好プレーの続出の中、上は70台から下は180台と楽しいゴルフの1日であった。その中原田比登志会員が優勝の栄につき、OBと対抗戦(上位10名ずつのスコア集計)では、現役が若さのいきおいでかろうじて勝利した。3番のショットホールには義援金箱を設置し、総額40,000円の義援金が集まった。

コンペ終了後、場所をホールサムインかいけに移して表彰式、懇親会が、コンペ不参加の会員も加わり、18:00より盛大に開かれた。司会の大田会員の進行の下、OB紹介(途中ハプニング交え)が有り、表彰式へ移って行った。優勝は原田会員が見事勝ち取り、堀田会長よりプレザーとトロフィーの贈呈があった。各委員長挨拶、新入会員自己紹介と賑やかに進み最後に、渡辺慎士OBの一本締めにて2時間余りの会は閉会となった。

秋の一日を、OBとの交流を深め、体を動かした有意義な日となった事と思う。そして、OBの方々の元気な顔にお会いして、我々現役会員もより一層会を盛り上げて行かなければいけないと思うのであった。最後にコンペの準備から懇親会の段取りまでされた総務委員会の方々は大変ご苦労様でした。

成績は以下の通り

1位 原田比登志	周年賞(25位) 中原 浩二	
2位 久野 一俊	当月賞(11位) 佐々木竹仁	
3位 川本孝一郎OB	当日賞(7位) 門脇 浩二	
4位 奥森 隆夫	フービー賞 尼子 清子	
5位 安部 忠昭OB	フービーカー賞 桶村 清子	
6位 鶴田 武久OB	ベストスコア 奥森 隆夫(76)	
7位 門脇 浩二	OB特別賞 藤森 秀樹	
8位 森脇 建雄OB	OBおし鳥賞 森脇 建雄	
9位 藤森 秀樹OB	ドラゴン 佐々木竹仁	
10位 田中 康裕	ニアピン 潮 邦昭	
		由島 康平
		中島 太郎



25周年記念交流ゴルフコンペ(OB交流対抗戦)

11月度委員会報告

マネージメント委員会

平成11年11月9日(火) 於:米子食品会館 出席者/8名
内容/ 内部講師として21地球委員会山本泰彦氏を迎え、「最近の経済状況と金融業界」について

その後講師先生と朝日町のスナック「マリエ」で二次会を行った。

ビジネス交流委員会

平成11年11月4日(木) 於:米子食品会館 出席者/9名
内容/ 当委員会の落合氏を講師に宝石・貴金属について語

っていただいた。委員会メンバー全員宝石には縁の薄い者ばかりであり、お話の内容のほとんどが初めて聞くことでした。宝石は信頼のおける業者(おちあい)から買うことが大切であると痛感した次第です。尚、購入予定のある方は、当委員会メンバーまでご相談ください。

政治行政委員会

平成11年11月12日(金) 於:夢みなとホール 出席者/12名
内容/ 役員会報告の後、野坂康夫氏を講師に迎え、大使館

総領事館の役割とは何か、何が行われているのか等、実際に体験された中国の天安門事件などをもとに、役割の重要性を語られた。

げんこつ委員会

平成11年11月8日(月) 於:岩崎館 出席者/9名
内容/「げんこつ・21地球委員会」合同委員会

・12月担当例会・打合せ
例会役割分担及び質疑応答

・12月委員会予定
【げんこつ・21地球委員会】合同委員会

日時:12月8日 PM6:30~
場所:皆生菊乃家

議題:12月担当例会最終打合せ

地域ビジョン委員会

平成11年11月9日(火) 於:米子食品会館 出席者/9名
内容/・12月例会について打合せ

・1月担当例会について打合せ
・講師先生について

・松江観光協会 永井努様、委員会として了承
・12月委員会(忘年会)について打合せ

・会員タイム

中澤会員・中島会員に会社概要及現在の部署について話を聞く

21地球委員会

平成11年11月8日(月) 於:岩崎館 出席者/10名
内容/ 11月8日(月)岩崎館で、げんこつ委員会と合同委員会を開催した。

12月担当例会の打ちあわせで、OB会員の皆様にも多数ご出席いただける様、全員「気を入れて」頑張ろうと決意した。

平成11年11月17日(水) 於:大連
内容/ 忘年例会の動きを再チェックした。

2020 グランドデザイン委員会
平成11年11月5日(金) 於:東亜青果樹2F会議室 出席者/7名

内容/・OB交流会の意見を踏まえて
今年度後半の委員会活動方針を討議する

・2月担当例会開催の件
内容の検討

・「人生企画」発表
夏山会員の発表を聞き、みんなで意見を述べ合い、大いに盛り上がった。

・各種行事の出席確認及び出席率の向上を誓いあった。

広報委員会
平成11年11月5日(金) 於:日経情報システム 出席者/14名

内容/・ハンサム12月号の編集打ち合せ
・インターネットメンテナンスの件

パソコン教室に場所を移し、各会員自らが操作して中央会のホームページを閲覧した。その過程で、個々のサーチエンジンの性格の違いや多彩なリンク集にアクセスすることにより大量の情報享受が可能となることを体験した。

総務委員会
平成11年11月4日(木) 於:ホールサムインかいけ 出席者/14名

内容/・25周年記念ゴルフコンペ当日役割分担の変更、確認について

・コンペ組合せ変更について
・懇親会担当確認

・最終調整等
本日は広報より桶村、尼子両会員をゲストに迎え場所をうつして懇親会を行った。

ご意見番コーナー

現在、引き続き取り組んでおります選挙運動についてですが、10月例会の意見も踏まえ3役案がまとまりました。各委員会へ持ち帰り意見を集約して更なる議論を重ねてまいります。活発なご意見をお寄せください。

事務局 F A X 0859 - 34 - 6441 E-mail : tsc@sanmedia.or.jp

「選挙運動と立候補者に対する推薦状に関する取扱について」(案)

1. 会則、内規の変更はしない。
2. 申し入れのあった候補者に対して、役員会の承認を得て、推薦状を出す。
3. 推薦状の取り扱いは、西部青年中央会の活動によく理解を頂ける候補者であるか、推薦に値する候補者であるか、よく検討して決定する。
4. 推薦状は、当会にとって推薦に値する候補者であることを証明するものである。
5. 選挙運動はあくまで個人の意志によるものであり、任意団体である当会が、主体的に選挙運動を行うことは不適切である。
6. 青年経済団体である当会の会員は、積極的に政治に関心を持たなければならない。しかしながら、選挙運動は、あくまで個人の責任においてなされるべきである。
7. 上記5、6項の活動以上を当会又は当会会員に求める場合は、総会により全員の総意を求めることとする。